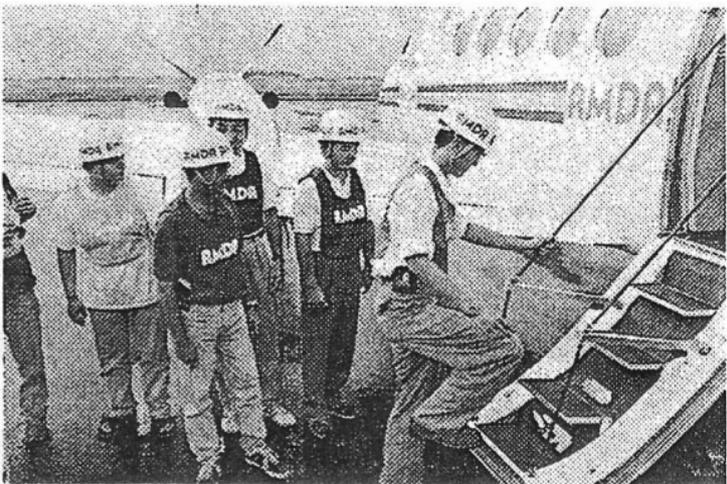


都会場にAMDA参加

岡山から飛行機で急行



東京都の防災訓練に参加するため、チャーター機に乗り込むAMDAスタッフ岡山空港

した広島県内のAMDAの医療スタッフ四人と、岡山のAMDA本部の三宅和久医師ら五人が合流。別のチャーター機に乗り換え、医薬品を積んで立川駐屯地へ。さらに同駐屯地で仙台空港から飛行機で駆け付けたスタッフとも合流し、へりで訓練会場に向かった。

アジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市榎津）、全日本病院協会、日本医師会で組織する「地域防災民間緊急医療ネットワーク」は一日、東京都足立区の荒川河川敷で実施された都主催の合同防災訓練に初参加。医薬品を携えAMDAのメンバーが、岡山空港から飛行機をチャーターして、中継地の陸上自衛隊立川駐屯地（東京都立川市）まで急行した。

岡山空港では広島空港からチャーター機で岡山入り

訓練会場ではスタッフらが東京都の医療班に加わり、患者への応急処置活動に参加。電気や電話線が寸断されたという想定で、無線やインターネットを使い、現地からAMDA本部に会場の画像を送るなどで、情報を交信した。

訓練に参加した近藤祐次AMDA事務局長は「今回の訓練では、医療ボランティアらが災害時の医療に慣れておらず、医療活動に手間取った。今後も訓練を繰り返し、災害医療活動のレベルアップを図りたい」と話していた。